第3の治療法、ニューロフィードバック

こいでクリニック　　小出誠司

てんかんの治療は、薬物か手術かの２択しかありません。第３の治療法としてニューロフィードバックと言う方法があります。この治療法は、1970 年頃に発見されましたが、日本では全く知られていません。

実は、脳波と言うものは、ある程度自分でコントロールすることが可能です。脳波を使ったオモチャも販売されています。脳波には沢山の周波数の脳波成分が含まれています。特定の周波数の脳波成分を増幅したり、逆にある周波数の脳波成分を減弱することによって、てんかん発作が起こりにくくなることが知られています。

頭皮の数カ所に設置した電極から脳波を測定しながら、コンピューターを介したテレビゲームをすることによって、この脳波のトレーニングを行うのがニューロフィードバックです。

ただし、1 回のトレーニング効果の持続時間は 24 時間程度しかありません。トレーニングを繰り返すことによって、てんかん発作が起こりにくい脳波を覚えていきます。最低 20 回以上のトレーニングが必要です。

これまで、沢山の論文が発表されていますが、薬剤抵抗性の難治てんかんに対する有効性は 60~70%以上と言われています。近年はさらに新しいプロコトールが開発されて、高い治療効果が報告されています。

当院での治療成績は、まだ症例数は少ないですが、薬剤抵抗性のてんかんの方や、手術を受けられても発作が治まらない難治てんかんの方を対象として、発作消失率は 50%以上、発作改善率は 80%以上と言う結果です。

残念ながら現時点では、これは根治療法ではありません。薬物療法や手術療法と併用して行くことが必要です。

ニューロフィードバックの長所は、侵襲性がなく、副作用がないことです。数ヶ月のトレーニングを終わって、何年か過ぎて発作が再発してくる場合もあるかもしれません。その場合も再トレーニングをすることによって、症状を改善することが可能です。再発に対処できることも、この治療法の大きな利点です。また、精神症状を改善することも知られています。ニューロフィードバックは、睡眠の改善を指標として、プロトコールを変更していきます。通常は、

睡眠が改善すると、気分や活力も改善してきます。それ以外にも、イライラしやすかったり、怒りっぽかったり、不注意や集中力困難なども改善していきます。

一方で短所は、週 1 回 1 時間弱のトレーニングを 20 回以上受けなければいけないと言う「煩わしさ」です。また、実施する施設側への経済的、施設的、時間的な負担も大きいため、日本国内での実施施設がほとんどないのが現状です。

当院では、近畿圏での治療の受け入れやニューロフィードバックに関する講演を受け付けております。興味のある方は、ご連絡ください。

連絡先　　こいでクリニック　　小出誠司
06-6771-7525
rainafterfine2007@yahoo.co.jp